



2026年度 目標発表会

部門



©磐田市



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度 目標発表会【部門1】 目次

NO.	種類	発表部署	ページ	NO.	種類	発表部署	ページ	
1	センター	がん診療センター	2	19	医療技術 部	臨床工学科	38	
2		がん相談支援センター	4	20		栄養管理室	40	
3		がんゲノム診療センター	6	21		臨床 支援 技術 科	歯科衛生士	42
4		ロボット支援手術センター	8	22			視能訓練士	44
5		女性骨盤機能センター	10	23			臨床支援士	46
6		認知症疾患医療センター	12	24			臨床心理士	48
7		栄養管理センター	14	25		地域医療 支援セン ター	地域医療連携室	50
8	院長直下	臨床研修センター	16	26	入退院管理室		52	
9		人材育成研修センター	18	27	医療・福祉相談室		54	
10		医療安全推進室	20	28	事務部	病院総務課 庶務G	56	
11		感染対策室	22	29		病院総務課 人事管理G	58	
12	QMセンター	24	30	病院総務課 施設管理G		60		
13	薬剤部	薬剤室	26	31		教育研修室	62	
14		臨床研究管理室	28	32		医事課 医事G	64	
15	医療技術 部	放射線診断技術科	30	33		医事課 健診G 健診センター	66	
16		放射線治療技術科	32	34		経営企画課 企画情報G	68	
17		臨床検査技術科	34	35	経営企画課 財務物品G	70		
18		リハビリテーション技術科	36					



©磐田市



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 がん診療センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
がん遺伝子パネル検査	113	150弱	120-150	成果時に 評価
がん遺伝カウンセリング	3件	20件	25件	成果時に 評価
遺伝カウンセラー擁立準備	0	0	大学院進 学を1人	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	内視鏡手術用支援器機加算の算定要件である年200件以上の悪性腫瘍(に準じた)ロボット支援下手術(直近半年で100件以上)	成果時に 評価
1. 地域から求められる医療を磨く	がんゲノム医療の維持、液性腫瘍への拡大 一般市民への情報発信	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く 職場環境を整備	通常業務時間内での当日治療完遂 午前早期からのchemo(前日採血など)	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	化学療法導入時や重篤副作用・アナフィラキシー 発生が想定されるregimenの原則入院加療 → 収益や医療安全性の向上	成果時に 評価



2026年度の目標達成に向けた施策

年200件以上のロボット支援下(悪性腫瘍)手術

を施行するためには・・・

- ・手術枠にとらわれない柔軟な手術予定組み
- ・一日縦2件のロボット支援下手術

体位設定時間、手術時間短縮の工夫を！

- ・Happy Mondayに2件ロボット支援下手術！



2026年度の新たな取り組み

- Happy Monday活用
- 検査科、SSIと会議→採血時間別order開始
- Vital check頻度を下げる： まずは7階東で導入



決意表明

- 最先端悪性腫瘍治療、特にロボット支援下手術を
安全に、そして待たせることなく
中東遠医療圏域住民に提供しよう！
そのために必要な情報の提供を！
- 職員が定時で帰宅できるような
患者さんにも職員にも優しいがん治療体制を
ととのえましょう



【2026年度】目標発表会 がん相談支援センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
がん相談件数(件)	2191	2353	設定不能 (予測不能)	成果時に 評価
がん相談支援センター相談員研修 基礎研修(3)取得(人)	1	1	1	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる 医療を磨く	がん患者に対する早期からの心理支援の実施	成果時に 評価
1. 地域から求められる 医療を磨く	がん相談支援センターやがんサロンを活用しやすく するための仕組み作り	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く 職場環境を整備	心理的安全性の担保	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

心理支援部門への繋ぎ方を決めることによって
タイムラグを最小限にする

がん患者サロンで講演を聴くばかりでなく、来場者が
能動的に参加できるようにアクティビティーの導入を
行う



2026年度の新たな取り組み

新たな相談・支援体制の構築の模索

相談の各局面の速やかな連携

医療

社会経済

心理



決意表明

相談者・医療者側ともに心理的
安全性を担保できるよう相談の
「場」の再構築を行います



【2026年度】目標発表会 がんゲノム診療センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
がん遺伝子パネル検査数(件)	132	155	150-160	成果時に 評価
国内承認薬の提示(件)	21	36	35-40	成果時に 評価
薬剤到達件数(件)	9	9	10	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	がんゲノム医療の更なる推進に向けた体制整備	成果時に 評価
2. 職員が生き生きと輝く職場環境を整備	多職種での関わり	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	検査数の維持	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

各診療科との院内連携・ふじのくにねっと
を活用した地域連携で検査数を維持する。



2026年度の新たな取り組み

今年度、がん遺伝子パネル検査が先進医療Aに追加される見込みであり、当院も参加施設となれるよう取り組みます。



決意表明

検査体制の維持と治療到達数の増加に全力を尽くします。



【2026年度】目標発表会 ロボット支援手術センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
ロボット手術実施件数(件)	131	183	230	成果時に 評価

☆ 内視鏡手術用支援機器加算の取得を目指す！

2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	ロボット支援手術の推進 スタッフ教育や育成による医療安全の確保	成果時に評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	業務標準化の体制整備 技術向上に向けた取り組み	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	効率的な運用によるロボット手術件数増加 内視鏡手術用支援機器加算(15,000点)の取得	成果時に評価

2026年度の目標達成に向けた施策

① 効率的な運用による手術件数増加

- ・「ロボット手術枠」にとられない科横断的な弾力運用
- ・祝日のロボット手術実施による手術件数の上乘せ
- ・内視鏡手術用支援機器加算の取得を目指す！

② スタッフ教育や育成による医療安全の確保

- ・緊急ロールアウトなどの医療安全面に関わる研修
- ・ロボット手術に対応可能なスタッフ数増員(看護師、GE)
- ・手術技術向上による手術時間の短縮(各所属長へのお願い！)

2026年度の新たな取り組み

内視鏡手術用支援機器加算の取得を目指す！

半期毎の集計が可能であれば今年度中



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

ロボット支援手術の安全性を担保しつつ
実績を伸ばし、地域医療に必要とされる
診療を実践していく。

内視鏡手術用支援機器加算の取得！



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 女性骨盤機能センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
外来紹介患者数(人/年)	-	51	80	成果時に 評価
新規入院患者数(人/年)	-	5	10	成果時に 評価
年間手術件数	-	5	10	成果時に 評価



2026年度 重点目標

2026年度の目標達成に向けた施策

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	地域住民・医師会への啓蒙活動 女性骨盤機能センターの体制充実	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	クリニカルパスの整備と新規運用 業務全般の体制整備 技術向上に向けたスタッフ教育	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	新規患者の獲得 リハビリ科の有効活用(骨盤底筋体操指導) 手術実績の向上	成果時に 評価

① 女性泌尿器科に関する啓蒙と教育

- ・地域医療住民・医師会への啓蒙活動
- ・医療従事者に対する教育(医師、看護師など)

② 患者指導と手術推進

- ・骨盤底筋体操指導(リハビリ科)
- ・膀胱水圧拡張術
- ・ボツリヌストキシン膀胱壁内注入
- ・尿失禁防止手術(TVT)



2026年度の新たな取り組み

排尿ケアチームの立ち上げ

- ・排尿ケアに関する介入を開始します(施設基準申請済)
- ・「女性」のみならず、「男性」も対象
- ・排泄自立支援加算・外来排尿自立指導料の取得
- ・院内マニュアルの整備と院内研修の実施



決意表明

女性泌尿器科領域の拡充を目指し、
地域医療に必要とされる診療を実践
していく。

排尿ケアチームを通して、入院から外来
まで「排尿自立」をサポートする。



【2026年度】目標発表会 認知症疾患医療センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
鑑別診断件数(件)	65	90	95	成果時に 評価
専門医療相談件数	376	646	670	成果時に 評価
認知症専門診断管理料1	25	44	50	成果時に 評価
認知症ケア加算身体拘束率	46.3%	36.6%	10%以下	成果時に 評価



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度 重点目標

2026年度の目標達成に向けた施策

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	<ul style="list-style-type: none"> 開業医との連携による認知症鑑別診断の受け入れ推進 抗Aβ治療薬の治療に対応するため地域の治療連携体制の構築を図る 	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	<ul style="list-style-type: none"> 鑑別診断希望患者の受入れの流れを見直し、より早く受診診断に繋がられるしくみを作り、専門職の知識を活かし職員が効率よく適切に介入できる体制を目指す 	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	<ul style="list-style-type: none"> 逆紹介患者に対する認知症専門診断管理料1(700点)の確実な算定を目指す 認知症ケア加算対象患者の身体拘束最小化を図り、身体拘束による減算を少なくする 	成果時に 評価

1. 地域から求められる医療を磨く

- 開業医との連携による認知症鑑別診断の受入れを推進し診断後の逆紹介により治療の継続を目指す。
- 抗Aβ治療薬の治療を推進するため地域医療機関との連携体制の構築を図る。
- 認知症サポート医との連携体制作りの検討を行う。
- 地域の医療機関や支援機関からの相談対応を行い、認知症医療ケア等の情報知識の普及を目指す。
- 認知症研修の開催を通じ、地域の認知症ケア体制作りに貢献する。



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の目標達成に向けた施策

2.職員が生き活きと輝く職場環境を整備

・紹介患者の増加に合わせ鑑別診断希望患者の受入れの流れを見直し、より早く受診診断に繋がられるしくみを作り、専門職員が効果的に介入できる体制を目指す。

3. 経営基盤の回復

・認知症療養計画書を医師、認知症看護認定看護師、相談員と共同して充実した内容で作成し、終診時に確実に交付出来る様早めに準備をし、交付する。逆紹介患者に対する認知症専門診断管理料1(700点)の確実な算定を目指す。

・毎週身体拘束最小化ラウンドを実施し、拘束介助に向けた支援をチームで考え、病棟と連携していく。



2026年度の新たな取り組み

・市内の認知症サポート医との連携を目的に
研修会を開催する。

かかりつけ医の相談窓口でもある認知症サポート
医と連携を図ることで地域住民の認知症症状の
早期発見早期治療予防を目指す。



決意表明

『認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って生活出来るよう
できる限り住み慣れた地域で相互に支え合いながら共生する
社会を目指す』

<認知症基本法>

院内・院外問わず認知症施策の関係機関と引き続き情報交換を
行い、認知症の発症予防や初期対応に努め、地域生活の維持
に必要な医療を提供していくとともに、診療報酬に繋がっていき
よう努力していきます。



【2026年度】目標発表会 栄養管理センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
栄養サポートチームラウンド 件数(件)	676	680	700	成果時に 評価
摂食嚥下チームラウンド 件数(件)	105	153	170	成果時に 評価
NST臨床実地修練者数(人)	11 (外部4人 含む)	12 (外部4人 含む)	12 (外部4人 程度)	成果時に 評価



2026年度 重点目標

2026年度の目標達成に向けた施策

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	患者の栄養状態および機能改善、QOL向上を目指し適切な栄養療法、リハビリテーションを提供していく	成果時に 評価
1. 地域から求められる医療を磨く	近隣病院へNST臨床実地修練の場を提供	成果時に 評価
2. 職員が生き生きと輝く職場環境を整備	風通しの良い、円滑なチーム運営	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	各種栄養関連加算(特食加算、栄養サポートチーム加算等)の増加	成果時に 評価

(入院部門)

- ・NST摂食嚥下チームの充実
- ・GLIM基準による栄養評価の拡大

(外来部門)

- ・周術期栄養管理加算の充実
- ・外来化学療法中への栄養介入
- ・生活習慣病、肥満、サルコペニアへの栄養管理



2026年度の新たな取り組み

- ・経腸栄養剤の統括(薬剤と食品の見直し)
- ・(嚥下調整食も含めて)加算食の増加



決意表明

当院の入院・外来の栄養管理を

NST摂食嚥下チーム・栄養管理室とともに
行っていきます。



【2026年度】目標発表会 臨床研修センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
初期臨床研修指導医の育成拡大	50名	50名	53名	成果時に 評価
マッチング応募者数拡大	34名	44名	50名	成果時に 評価
初期臨床研修医のヒヤリハット記 載件数の増加	0.24件/人	0.46件/人	10件/人	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる 医療を磨く	臨床研修指導医の育成拡大	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	初期臨床研修医の確保(マッチング応募者数の増 加)、専攻医として当院で継続勤務を希望してもらえ るような満足度の高いプログラムの構築	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

■ 若手医師(研修医)の安定確保

- 方法:
- 病院合同説明会参加:
 - ・レジナビ東京:6月、3月
 - ・静岡県病院説明会:7月、3月
 - 病院主催の説明会 :6月、12月
 - Web病院説明会 :6月
 - 臨床実習の内容の充実
 - ・学生の要望を加味したレクチャーの実施
 - ・初期臨床研修プログラムの魅力のアピール



2026年度の目標達成に向けた施策

■ 初期臨床研修指導医の安定確保

方法

- 指導医講習会の開催状況の随時把握
- 受講対象者の把握とアナウンス



2026年度の新たな取り組み

- 研修の到達度の確認のための面談の実施
目標:4回/年
(ヒヤリハットの入力状況もあわせて確認)
- 研修医の研修評価の精度管理
評価の基準を指導医へ再確認するための
アナウンスの実施



決意表明

- ・ 将来の中東遠地域の医療を担う優秀な若手医師(初期臨床研修医)の確保に努めます。
- ・ 将来当院にもどってきたいと思えるよう、質と満足度の高い研修プログラムを目指します。



【2026年度】目標発表会 人材育成研修センター

2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	医療機関、訪問看護等からの特定行為研修の受入れ促進の支援	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	職員の資格情報把握と管理体制の構築 キャリアアップや能力向上支援	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	資格情報管理の活用による施設基準の適切な維持の支援	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

資格確認システム導入の検討:各部署が個別に持っている資格のデータを把握し、一元管理する。

地域からの特定行為研修の受入れ促進:地域のニーズの把握

2026年度の新たな取り組み

職員の資格取得状況の把握と管理体制の構築



決意表明

職員の資格情報を把握してキャリアアップや
能力向上を支援し、施設基準等の適切な維持
につなげる



【2026年度】目標発表会 医療安全推進室

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
深部静脈血栓症予防管理料算定率 (手術あり/内科系 *ヒラソルデータより)	92.7% 4%	92.1% 4%	95% 25%	成果時に 評価
医師からのヒヤリハット(インシデント)、 オカレンスレポート数	126件 (研修医 13件)	118件 (研修医 15件)	200件 (研修医 10件/人)	成果時に 評価
医師/看護師 率	4.7%	4.6%	10%	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる 医療を磨く	医療安全管理者養成研修の有資格者の育成・確保	成果時に 評価
1. 地域から求められる 医療を磨く	医療安全研修会の開催と職員の医療安全意識向上 の支援	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く 職場環境を整備	エンタランス「医療安全」内アップデート・改定 利用しやすいマニュアル改定・周知	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	改訂後の医療安全対策加算1の取得継続 深部静脈血栓症予防管理料算定数の増加	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

- 医療安全管理者養成研修受講者2名 + Q-SAFER受講6名
- 医師の医療安全活動を促進
 - ・教育研修室と連携・研修医の修了要件にヒヤリハット報告 > 10件/年
 - ・医師に関連する他部門からの報告を医師からもあげてもらう
- 医療安全研修会を2/年開催 (医療安全研修会受講率 > 95%)
 - ・それぞれ2日間のうち1時間受講、未受講者はバリデス研修
- 分析事例・医療安全面談事案を基にしたマニュアルの改訂
- QMセンターと共創したモニタリングと見える化
- 医療安全相互評価(中東遠地区)3回/年



2026年度の新たな取り組み

- QMセンターと共創して

医療安全インシデント報告数などの見える化

- 医局会での周知

医療安全管理委員会報告の分析事例、

警鐘事例とその対策案を共有する。



決意表明

- 信頼される医療安全推進室を目指します。

- 報告事案から改善策を立案していきます。

- 心理的安全性の確保に努めます。



【2026年度】目標発表会 感染対策室

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
感染対策研修会受講率(%)	98.4	97.3	98以上	成果時に 評価
血液体液曝露件数(件)	31	33	29以下	成果時に 評価
黄色ブドウ球菌の メチシリン耐性率(率)	25	27	23以下	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる 医療を磨く	各種サーベイランスの実施とサーベイランスに基づいた介入支援の実施	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く 職場環境を整備	専従感染管理認定看護師同士の情報共有(1日1回)	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	感染防止対策向上加算1 取得	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

感染防止対策向上加算取得

中東遠感染対策ネットワークカンファレンス実施と連携施設との情報共有
(年3回以上当院の事例報告)と相談対応(必要に応じて訪問)を行う

加算1他施設と連携し中東遠地域の感染対策改善を行う
加算2、3施設への指導強化加算による対策改善の援助
全職員対象感染研修会の開催

サーベイランス(CLABSI、CAUTI、SSI、VAE)の実施と関係部署と協力し感
染率低下に向けた取り組みを行う



2026年度の目標達成に向けた施策

職業感染曝露対応

過去2年分の発生状況を分析し改善策を検討

発生状況を各部署に周知する

専従感染管理認定看護師によるラウンド時の指導強化範囲の拡張

発生部署と連携し改善策を検討

医局・看護部・手術室・教育研修室など

各種研修会の実施

新規採用者研修・初期研修医研修・全職員対象感染研修

院内発生事例と対策の周知

院内感染防止委員会・ICT連絡会・看護部感染予防委員会

ICTニュース(4月10月)



2026年度の新たな取り組み

災害発生時において、院内感染の発生および拡大を最小限に

抑え、診療機能を維持するための初動体制の確立

・感染対策室のアクションカードの作成とBCPの整備

・トリアージや診療エリアにおける標準予防策遵守率

向上に向けた体制作り(感染症患者のゾーニングと導線の管理)



決意表明

院内感染を防ぐために

院内の各部署、他施設、保健所と

連携協力し最善を尽くします



【2026年度】目標発表会 QMセンター



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	QMセンター運営委員会を軌道にのせ、経営指標の見える化、改善策立案・共創を行う	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	5S(3S:整理・整頓・清掃)を推進することにより、医療安全への寄与と職員の働きやすさ・効率性向上に向けた取り組み	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	QI指標の設定による医療の質の評価とモニタリングの実施と合わせた診療報酬の適切な算定の実施	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
改善策(協力含)の立案・実施	-	-	20件	成果時に評価
5Sラウンド/リーダー研修	-	-	2回/3回	成果時に評価
QMコンテストからの横展開事案	-	-	2件	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

- エントランスとSSIの「ダッシュボード」の作成・向上
 - ・新ダッシュボードのモニタリング強化、見える化の強化
- 情報収集に努め、現場との共創
- 院長直下組織としてスピード感を重視した対応
- QMセンター運営委員会1/月での議論
- 5Sアゲイン・伝承
- QMコンテスト開催と演題からの横展開



2026年度の新たな取り組み

- エントランスとSSIの「ダッシュボード」の作成・向上
 - ・新ダッシュボードのモニタリング強化、数値目標・達成度の見える化の強化
- 情報収集に努め、現場との共創 →医療安全・MACTなど
- 院長直下組織としてスピード感を重視した対応
- QMセンター運営委員会1/月での議論 →経営トピックス
- 5Sアゲイン・伝承 →新旧スタッフによる復刻と伝承
- QMコンテスト(5S・業務改善)開催と演題からの横展開
- サンクスボード/ありがとうルーム、職員アンケート



決意表明

「当院をより強く、豊かに」の目標の一翼を担えるように
情報共有・対策立案を行います。

先人が作り上げた磐田市立総合病院が、この先も輝き未来にお渡しできるように「自分たちが未来を創る」という意識をもって取り組みます。



*2026/4/7山崎病院事業管理者方針発表会スライドより

【2026年度】目標発表会 薬剤部 薬剤室



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	がん化学療法患者への積極的な専門的介入	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	臨床研修制度確立と認定・専門薬剤師の育成	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	質の高い病棟業務の実施	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
がん薬剤療法体制充実加算 算定件数(件)	8	21	25	成果時に評価
認定・専門薬剤師の育成(人)	1	2	2	成果時に評価
薬剤管理指導実施率(%)	89.8	90.5	90	成果時に評価
ハイリスク薬薬剤管理指導 実施率(%)	52.4	63.0	65	成果時に評価
退院時薬剤管理指導 実施率(%)	62.8	61.9	65	成果時に評価
薬剤総合評価調整加算 算定件数(件)	190	327	40	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

＜がん化学療法患者への積極的な専門的介入＞

・連携充実加算 130件/年

認定薬剤師による勉強会の実施などによる

薬局薬剤師との連携体制強化

・がん薬物療法体制充実加算 25件/年

入院中の説明実施による患者さんへの薬剤師

外来の周知と継続的な関わり



2026年度の目標達成に向けた施策

<臨床研修制度確立と認定・専門薬剤師の育成>

- ・昨年度仮運用、今年度より本格的に運用開始
- ・運用したうえで研修内容や評価の方法などを検討・確率
- ・認定・専門薬剤師育成へチームでのフォロー体制の構築

<質の高い病棟業務の実施>

- ・病棟薬剤管理指導 ハイリスク実施率65%以上
服薬指導機会実施率70%以上
- ・退院時服薬管理指導実施率65%



2026年度の新たな取り組み

<病棟薬剤業務実施加算1(週1回300点)の取得>

【算定要件】

- ・薬剤総合評価調整加算実施件数の確保
(ポリファーマシー対策:10件/3ヶ月)
- ・退院時薬剤情報連携の実施
(薬剤情報の連携:退院時サマリー作成)
- ・退院時薬剤管理指導率の確保
(退院患者の60%以上)

入院中の適正な介入の充実により確実な算定取得実施



決意表明

業務の効率化を図り、対人業務時間を
創出する

薬剤師業務の質を向上させ
信頼される薬剤部を実現する！



【2026年度】目標発表会 薬剤部 臨床研究管理室

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
新規治験契約件数	3件	2件	3件	成果時に 評価
新規特定臨床研究契約件数	3件	3件	3件	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	治験や多施設共同研究などへの積極的な参加の推進	成果時に 評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	治験コーディネーターの育成	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

1. 地域から求められる医療を磨く
 - 新規治験誘致への積極的なアピールの強化
 - 多機関共同研究の管理・サポートの充実
 - 分散型治験(DCT)体制の整備
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備
 - 臨床研究コーディネーター(CRC)の育成
 - 育成ラダーの有効活用と見直し



2026年度の新たな取り組み

FMV(Fair Market Value)に基づいたタスクベース型
治験費用算定方法の把握

- ・現在の日本における状況
- ・導入における当院での収益変化

各種団体や学会での情報収集

所属ネットワークや近隣医療機関と連携



決意表明

昨年度に構築した様々な新しい形の治験に対応
できる体制を活かし、新規受託件数の増加と当院
の集患に努めます。

また、既に受託中の治験・研究における実施率
(組み入れ率)向上やより質の高いサポート継続
のため、人財育成を強化します。



【2026年度】目標発表会 放射線診断技術科

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
3TMRI外来件数 320列CT外来件数	369件/月 643件/月	370件/月 555件/月	380件/月 660件/月	成果時に 評価
画像レポート既読率(%) 未読件数	97.4% 985件	97.6% 870件	100% 0件	成果時に 評価
頭部IVR件数 下肢IVR件数	28件 43件	19件 61件	30件 65件	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	・患者の負担軽減・がん等疾患の再発の超早期診断につながるAI技術を活用した診断技術導入の検討	成果時に 評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	・専門的なスタッフの育成 ・AIの活用等による業務効率化の推進	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	・診療報酬増加の3TMRIと320列CTの最適運用 ・頭部IVR・四肢IVR検査の増加に対応	成果時に 評価



2026年度の目標達成に向けた施策

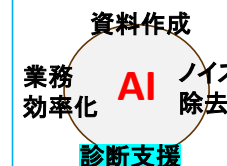
1. 地域から求められる医療を磨く

AI技術を活用した画像診断支援の検討

診断・治療の質の向上

夜間・休日での見落としの防止
放射線診断医・専門医の負荷軽減

肺CT画像による肺結節検出
頭部CT画像による高吸収・低吸収領域の描出



2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備

専門的なスタッフの育成

- ・経験年数にあわせたクリニカルリーダー レベルの取得
- ・世代を考慮した計画的な認定資格取得
磁気共鳴専門技術者、胃がん検診認定技師・放射線管理士の取得
- ・臨床研究による診断技術の発展・技術向上



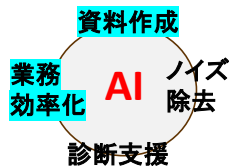
2026年度の目標達成に向けた施策

2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備

AIの活用等による業務効率化の推進

- 患者被ばく相談リーフレットの作成
- 予約枠管理
- 教育用資料の作成など

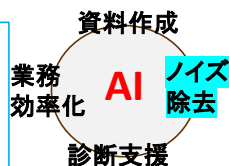
今後更に検討



3. 経営基盤の回復

3TMRIと320列CT診療報酬増加: 外来件数増加

- 3TMRI: 祝日検査の施行
AIノイズ除去機能撮像時間短縮と質の担保
- 320CTと5300CTの使い分け
AIノイズ除去による被ばく低減(造影と単純)
- 頭部・四肢IVR検査の増加に対応



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の新たな取り組み

画像レポートの既読管理体制の構築

現状 読影サーバより未読リスト作成

医師事務より医師に連絡

97.6%(870件/年)

今年

電子カルテのトースト通知管理機能を使用(通常と重要の区分)

読影サーバより未読リスト作成

電子カルテより再通知、上級医に通知

目標: 100%(0件/年)

線量管理アプリ使用による患者被ばく管理

RDSRファイルでの患者被ばく線量管理へ変更



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

放射線診断技術科は

AIを効果的に活用し

患者満足度向上

職員満足度向上

質の高い医療を目指します!



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 放射線治療技術科

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
放射線治療患者実人数	407人	398人	400人以上	成果時に 評価
強度変調放射線治療実人数	162人	140人	150人以上	成果時に 評価
定位放射線治療実人数	43人	48人	55人以上	成果時に 評価



2026年度 重点目標

2026年度の目標達成に向けた施策

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	高度急性期拠点として、高精度放射線治療と新規治療の提供により、地域医療への貢献を強化する	成果時に 評価
2. 職員が生き生きと輝く職場環境を整備	専門性を活かし、成長とやりがいを実感できる職場環境を構築する	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	診療報酬改定に対応し、効率的かつ持続可能な運営体制を確立する	成果時に 評価

◆ 地域から求められる医療を磨く

- IMRT・定位治療の適応最適化および症例検討の強化
- 品質管理(QA/QC)の標準化
- 新規核医学治療導入に向けた体制整備

◆ 職員が生き生きと輝く職場環境

- AI活用による業務標準化および効率化の推進
- 多職種連携の強化



2026年度の目標達成に向けた施策

◆ 経営基盤の回復

- IMRT・定位放射線治療の適正実施と症例確保による収益基盤の強化
- 装置稼働率の向上(停止リスク対策・代替体制)
- 新規治療の導入・定着による収益基盤の強化



2026年度の新たな取り組み

◆ 遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対するPSMA標的治療(核医学治療)の体制整備

- 関係部署との連携体制構築
- 治療フローおよび安全管理体制の整備
- スタッフ教育および運用マニュアル作成
- 対象患者の受入体制の確立



決意表明

- 正確な治療計画の実施と、患者さん一人ひとりに寄り添った丁寧なサポートに努めます
- 厳格な品質管理を徹底し、安定した装置運用のもとで最適な線量計算と機器管理を実践します
- PDCAサイクルを活用し、効率性も意識した継続的な業務改善と自己研鑽を推進します
- 多職種連携を一層強化し、限られた環境の中でも信頼性の高い治療提供体制の維持・向上に取り組みます



【2026年度】目標発表会 臨床検査技術科

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
外部精度管理調査(総合評点) (日本臨床衛生検査技師会/ 静岡県臨床衛生検査技師会/ 日本医師会)	98.5	98.9	95点以上	成果時に 評価
認定資格取得・指定研修修了 (人)	18	7	5人	成果時に 評価
経費率(%)	61.3	62.0(予)	65%以下	成果時に 評価



2026年度 重点目標

2026年度の目標達成に向けた施策

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	質の高い検査の提供 わかりやすい患者説明ツールの整備	成果時に 評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	人材育成とキャリアパスの明確化	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	収益を考慮した検査項目の見直し(院内・院外)や、 包括算定によるコスト持ち出し検査への対策	成果時に 評価

<地域から求められる医療を磨く>

- 「品質保証施設認証制度」認定維持 (2026.6.1~2028.5.31)
- ISO15189 認定維持 (2026年6~7月第2回更新審査)
- 患者説明ツールの見直し

<職員が生き活きと輝く職場環境を整備>

- 認定資格取得への支援
- 複数の業務スキルを持つ人材の育成
- センター業務の充実



2026年度の目標達成に向けた施策

<経営基盤の回復>

- 経営的視点を持った技師の育成
- 収益を考慮した検査項目の見直し(院内・院外)
- 包括算定によるコスト持ち出し検査への対策

< AIの活用 >

- 各部門【検体(生化、一般、血液、輸血、細菌)、病理、生理】
- 科内事務局【管理、技術、文書、環境・設備、内部監査、教育、防災】
- 科内チーム【糖尿病、内視鏡、KYT、5S】



2026年度の新たな取り組み

臨床検査技師による他職種への研修

<骨髄像判読指導>

血液内科と連携

対象: 初期研修医および専攻医

目的: 形態学的評価能力の向上を通じて血液疾患の診断精度を高めるとともに、若手医師の診断能力の底上げや技師の能力向上を目指す

臨床検査技師が有する専門的知識・技能を教育に還元することで、診療の質向上および他職種連携の強化に寄与したいと考えます



決意表明

- ・ 検査の質と安全の世界標準化を目指します
- ・ DXとAI活用による業務の見える化と効率化に取り組みます



【2026年度】目標発表会 リハビリテーション技術科



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	365日介入に向けた体制の整備	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	間接業務時間を圧縮することで 単位数の向上につなげる	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	早期介入による加算算定	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
技師1人あたりリハビリ平均単位数	15.8	15.3	17単位	成果時に評価
総合実施計画書算定率	77%	83%	83%	成果時に評価
がんリハ算定資格取得(新規取得)	4人	4人	4人	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

- 間接業務の整理
- スマホ導入の提案
- 診療報酬対応
 - ・ みなし単位対応のためにも、患者対応以外の実績管理
 - ・ 365日出勤体制に向けて祝日出勤の開始



2026年度の新たな取り組み

- 部門システムを用いた、間接業務実績管理
- 3日以内の早期リハ加算の算定を積極的に
- 祝日出勤のテスト開始



決意表明

診療報酬改定に対応しつつ
利用者さまの利益と病院経営に貢献する



【2026年度】目標発表会 臨床工学科



2026年度 重点目標

項目	目標
1. 地域から求められる医療を磨く	心血管インターベンション技師や消化器内視鏡技師の育成による質の高い治療体制の維持・強化
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	専門性の高い人材の計画的な育成 AIの活用した機器管理、指導方法の統一化
3. 経営基盤の回復	年間点検計画に沿ったME機器の保守・点検 技士によるメーカー同等点検実施による外部委託工賃費用の削減 積極的な共同購入品への切り替えによる経費削減



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標
院内CE修理対応割合(%)	78	73	70以上
共同購入品への切り替えによる経費削減(円)	1090万	280万	300万
心血管インターベンション技師(人)	1	0	計3

- > 修理件数の減少と委託点検作業費用の削減
- > 内視鏡関連のスコープ等、修理高額費用なものの削減
- > ME・透析関連分野での共同購入品切り替えを主とする
- > 医師等業務負担軽減へのためのタスクシフト
心血管カテーテルの清潔介助及び緊急カテーテルへの対応



2026年度の目標達成に向けた施策



高精度の定期点検を実施

不具合を早期に発見し、高額修理を未然に防ぐ

取り扱い方の周知徹底

備品類の情報収集、SPD部門との連携



緊急カテーテルへの介入と体制構築

平日夜間のカテ待機対応日数の拡大

カテ対応要員の教育及び増員



2026年度の新たな取り組み

◆体制構築

- 内視鏡センター開設に向けての人員体制の構築
- 気管支鏡検査への介入 = 呼吸器内科医師のタスクシフト
- QMセンターの充実 (MACT: モニターアラームコントロールチーム)

◆診療報酬

- 腎代替療法診療体制充実加算 (災害体制の構築、対策マニュアルの作成)
- シャントエコーの実施 (超音波検査350点の算定) と基盤作り

◆費用削減

- JHRS ポリシースタートメントへの対応、メーカー立会料の削減
- サプライ業務への介入及び委託費用の削減

◆広報

- 市民向けイベントの開催 (サイエンスフェスタへの参加)



決意表明

「いのち」を支えるエンジニアとして質の高い医療の実現に向けて

- 機器・器材類の安全管理・適正使用に徹する
- 医師の働き方改革の推進
- 診療報酬を確実に取得
- AIの活用



【2026年度】目標発表会 栄養管理室



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	転院予定の患者への患者情報提供書の作成による転院先の医療機関との連携強化	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	スタッフの技術向上による業務の標準化	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	患者の既往症に即した食事提供の実施	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	入院患者への栄養指導の実施	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
日本腎臓病療養指導士(人)	0	0	1	成果時に評価
退院時栄養情報連携加算算定(件)	284	471	500	成果時に評価
特別治療食割合(%)	36%	39%	45%	成果時に評価
特別治療食患者の入院栄養食事指導実施割合(%)	39.3%	37.4%	43%	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

1. 転院情報を早期に把握し、書類の作成、事前に電話連絡を行う体制の構築
2. 交替勤務の見直しを図り、日勤スタッフを確保し、休日勤務の代休を希望日に取得できる体制を整える。



2026年度の目標達成に向けた施策

- 入院前から、既往歴を把握した食事入力、患者への栄養指導啓蒙を図る
- 嚥下調整食を喫食している患者への退院前栄養指導実施率を向上させる。



2026年度の新たな取り組み

嚥下調整食を治療食加算として取得できるように、システム作り。



決意表明

厨房業務のスリム化し、持続可能な給食運営を図る。

患者さんにとっても満足度の高い、安全な食事を提供する。



【2026年度】目標発表会 歯科衛生士

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
周術期等口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ	1285件	1579件	1600件	成果時に 評価
周術期等口腔機能管理Ⅲ・Ⅳ	3239件	4608件	4700件	成果時に 評価
口腔機能管理	319件	343件	360件	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	周術期等口腔機能管理の推進	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	業務効率化と人材育成の推進による働きやすい職場環境の整備	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	診療報酬改定への対応と算定精度の向上	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

- 周術期等口腔機能管理の推進
 - ・ハイリスク患者の重点管理
 - ・客観的評価の導入
 - ・医科歯科・多職種連携の深化
- 業務効率化と人材育成の推進による働きやすい職場環境の整備
 - ・役割分担の明確化
 - ・資格取得
 - ・柔軟なシフト管理
- 診療報酬改定への対応と算定精度の向上
 - ・内容を迅速に把握し、算定可能な新規項目を即座に運用へ反映



2026年度の新たな取り組み

- ・ 放射線治療又は化学療法を原因とした口腔乾燥に対して口腔粘膜湿潤度検査の実施
- ・ 摂食嚥下認定看護師と連携した「口腔・嚥下合同評価プロトコル」の策定



決意表明

重症化予防につながる
口腔管理をさらに充実させ全身の健康
を支える歯科医療を推進します。



【2026年度】目標発表会 視能訓練士

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
一般検査(件)/年	3,236件	5,865件	6,000件	成果時に 評価
特殊検査(件)/年	1,981件	3,518件	3,600件	成果時に 評価
硝子体注射サポート(件)/年	120件	223件	230件	成果時に 評価



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	質の高い眼科チーム体制の維持による眼科外来患者への対応力の向上	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	業務の標準化の体制整備と技術向上に向けた取り組み	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	新規導入機械を積極的に活用	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

1. 地域から求められる医療を磨く

今年度は検査スタッフ数が3人に確保されたため、検査待ちの時間短縮が予想されます。そのぶん予約検査数を増強できます。そして予約患者さんに対して少ない影響で、緊急検査が対応可能になります。

2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備

症例数の多い病状に対し、定型検査マニュアル作成や事前カンファレンスの参加で、スムーズに検査を進行できます。眼科医による視能訓練士教育だけでなく、他施設の医師・スタッフとの研修・勉強会で検査技術の向上をはかり、検査の苦痛軽減につなげていきます。

3. 経営基盤の回復

新規導入の機器を活用し、検査結果を見える化していきます。患者さんや御家族も病状をみて知ること、さらに治療に向き合いやすくなると思います。



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の新たな取り組み

- 患者さん御家族が病状を理解しやすくなるように、治療前・治療中・治療後で眼底撮影など画像検査を行い、検査結果(眼の状態)を見える化していきます。
- 新規導入の機械が経営にどれほど反映できるか調査していきます。



決意表明

患者さんの満足度を最優先に、眼科医の縁の下の力持ちとなり、前年度に向上した業績を維持できるよう頑張ります。



【2026年度】目標発表会 臨床支援士



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 職員が生き活きと輝く 職場環境を整備	今年度中にマニュアルの見直しを行い、担当者不在でも同レベルの対応が可能となるようにし、休暇を取得しやすい環境を作っていく。	成果時に 評価

マニュアルの見直しを進め、休暇を取得しやすい環境とすることで、働きやすい職場環境にしていきたいと考えています。



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
診断書修正依頼件数	月平均 15.4件	月平均 10.1件	月平均 10件	成果時に 評価
返戻率	1.79%	1.15%	1.1%	成果時に 評価

修正件数を減らすことで、文書受付での業務の削減、患者さんへ診断書をお渡しできる期間の短縮に繋がることが考えられます。

診断書作成件数は月によりばらつきがあるため、返戻率1.1%以下を目標に、修正依頼件数を減らしていきたいです。



2026年度の目標達成に向けた施策

・マニュアル改正

1月の電子カルテ更新後、修正依頼件数が増加したことから、マニュアルの見直しを行い、ミスの軽減に繋がりたいと思います。



2026年度の新たな取り組み

脳神経外科

薬剤(レケンビ・ケサンラ)使用成績調査登録

今年度新たに、上記登録作業を臨床支援士で行うことになりました。

誤りなく登録ができるよう、進めていきます。



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

他部門と協力し、個々がスキルアップ

することで、医師の負担軽減および

患者さんの満足度向上を目指します！



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 臨床心理士



2026年度の目標達成に向けた施策

小児・周産期

- 切れ目のない心理的支援体制の充実化、地域行政等と連携した親子支援
- 気になる親子の早期発見・早期介入システムの充実化

成人・緩和ケア

- がん・緩和ケア領域/苦痛のスクリーニング陽性患者への介入率50%以上
- その他/心理療法・援助技法等の専門性の向上、診療報酬への貢献

認知症ケア

- 外来機能検査の新しい仕組み作り(マニュアルやフローの作成)



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	小児・周産期 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害種に応じた質の高い心理療法・心理教育の提供 ・ 安心できる出産・分娩・子育てのための心理的支援 	成果時に評価
	成人・緩和ケア <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的・効率的な心理的ケア提供体制の整備 	
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	認知症ケア <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来認知機能検査体制の充実化、および効率化、患者やご家族の負担低減 	成果時に評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理士全員が初めて一部屋に集結し、連携強化 ・ 患者/職員向け研修準備にAI活用、質の均一化と業務の効率化 	



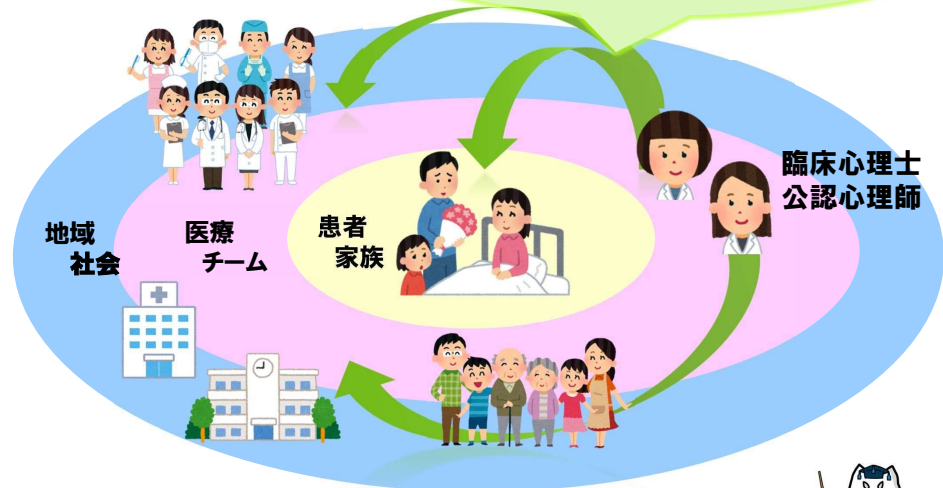
2026年度の新たな取り組み

- ✓ ペアレント・トレーニングの実施(磐田市こども未来課と共催)
- ✓ 要支援小児患者対策チーム連絡会の活動実績整理、啓発
- ✓ 外来認知機能検査体制の充実、整備
- ✓ 心理室の環境改善、「5Sアゲイン」



【2026年度】決意表明

医療の現場や地域社会に
こころの視点を提供する
活動を続けていきます



【2026年度】目標発表会 地域医療連携室



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	・地域開業医、施設等への訪問実施・・・ 他医院・施設を知った上で当院の強みを伝える 明確な戦略を持って訪問 医師の同行訪問の強化	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	・多様な職種、雇用形態であるからこそ・・・ 互いを理解し認めながら協力しあえる環境作り 「今日が仕事でよかった！」と思える一日をみんなで作る	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	・紹介・予約システムを見直し業務の見直し	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
月平均紹介件数(件)	1070	1097	1200	成果時に評価
月平均逆紹介数(件)	1330	1273	1300	成果時に評価
医療機関訪問件数(件)	300	261	300	成果時に評価
地域医療セミナー実施回数(回)	5	5	5	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

・地域開業医、施設等への訪問実施

→他医院・施設を知る

マーケティング・把握・分析し優先順位を決める

→当院の強みを知り、伝える

当院の財産・人財・マインド❤️やはり大事なものは人

→明確な目的を持って訪問

→医師の同行訪問の強化

紹介を受けたい疾患・病態を具体的に伝える

……地域から選ばれる病院に……



2026年度の新たな取り組み

- ・ 紹介・予約システムの見直し

委託検査予約のオンライン予約導入実現に
向けての検討

業務の効率化・働き方改革・時間外労働削減に
寄与すると考えている。



 磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

「地域医療連携室は選ばれる病院になるため
の命運を担っている」

といっても過言ではない・・・と書籍にありました。

自らの仕事に誇りを持ち日々の業務に努めていきます。



 磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 入退院管理室



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	<ul style="list-style-type: none"> ・後方医療機関、在宅ケア関係者との連携強化につなげる顔の見える関係の強化 ・多職種と協働した支援の充実 ・病床稼働率を意識した病床管理 	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	<ul style="list-style-type: none"> ・医療DX(ポケメド)の活用による業務効率化の推進 	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	<ul style="list-style-type: none"> ・シームレスな入退院支援を提供することで、入退院支援に関連した加算取得の増加 	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
入退院支援加算1算定件数(件)	4982	5962	6200	成果時に評価
入院時支援加算1算定件数(件)	214	1628	1750	成果時に評価
退院時共同指導料2算定件数(件)	89	92	126	成果時に評価
介護支援等連携指導料件数(件)	143	133	148	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

- * 居宅・医療対応型老人ホーム・包括支援センター
訪問看護ステーションへの訪問強化
- ・年間を通し訪問スケジュールを作成
計画的な訪問により顔の見える関係作りの推進
- * 病床稼働率を意識した下り搬送の活用



2026年度の新たな取り組み

* 入院支援内容の拡大

- ・全診療科の手術、検査オリエンテーションに対する支援の実施
- ・Web問診システムの導入

* 院内外の多職種との連携

- ・地域を支えるケアマネジャーと共同した事例検討会の導入



決意表明

➤ 病床稼働率83%以上維持！

➤ 院内多職種の協働による

入退院支援の質向上！

➤ 地域との連携強化！



【2026年度】目標発表会 医療・福祉相談室

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
中東遠圏域相談室連絡会	2回	2回	2回	成果時に 評価
中東遠圏域若手MSW勉強会	-	-	2回	成果時に 評価
重症メディエーター介入率	30.2%	40.2%	50%	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	地域協働による相談支援の拡充と専門性の向上	成果時に 評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	ペイシェントハラスメントに対応する知識とスキルの獲得をする	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	病院の損失予防を可視化する	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

「地域から求められる医療を磨く」

- ・メディエーション研修受講者への継続研修
- ・地域協働による相談支援の拡充
 - 障害児(者)の出張相談
 - 身寄りのない人への支援WGへの参加
- ・地域協働による専門性の向上
 - 中遠圏域の相談室連絡会の開催
 - 若手MSW勉強会の開催(new)



2026年度の新たな取り組み

「ペイシエントハラスメントへの対応」

- ・マニュアル作成
- ・段階に応じた対応ステップのフロー作成
- ・実践テクニックの共有
- ・統一した対応方法と記録

職員を組織で守る



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

- ・専門性を活かした質の高い相談対応で、
相談者の不安・不利益を解消し、「人生の備え」
を支えます。
- ・的確な介入で病院の経営と信頼を静かに守る
「防波堤」の役割を果たします。



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の新たな取り組み

「病院の損失予防を可視化する」

- ・相談内容をケースの難易度に応じたスコアリング
分析
- ・医療・福祉相談室の介入深度の評価を行い、
損失予防への寄与を計る
- ・エスカレーション評価によるメディエーション機能を
可視化する

病院の損失予防への寄与



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

【2026年度】目標発表会 病院総務課 庶務G

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
(後期) 職員健康診断の事務処理時間	87時間	87時間	74時間	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
2. 職員が活き活きと輝く 職場環境を整備	全ての職員が身体的・精神的・社会的に良好な状態 の支援	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

全職員が身体的・精神的に良好な状態の支援

職員健康診断事務の改善



目的 職員がより受診しやすい健診にする

- 6月 現状把握・他組織調査
- 7月 事務作業の見直し・支援依頼
- 9月 改善案作成・院内調整
- 10月 職員周知準備



2026年度の新たな取り組み

業務は増える

人員は減らされる

残業は制限

同じことを同じ時間でやったら固定費増加

理由 定期昇給するから

ひとり1効率化

- ・グループ員の人事評価目標にする
- ・時間短縮・ポカヨケ・重複業務の統合
- ・「やめる」もOK



決意表明

庶務グループは

- 1 所属の垣根を超えた連携を意識し、病院の潤滑油となります
- 2 規律ある事務処理を徹底し、病院の信頼を足元から支えます
- 3 常に研鑽に努め、得た知識を病院経営の改善に生かします



【2026年度】目標発表会 病院総務課 人事管理G

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
救急救命士の確保 (人)	1	1	2	成果時に 評価
外部カウンセラーの利用者数 (人)	24	24	24	成果時に 評価

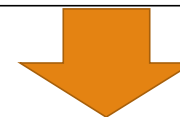


2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	主任、係長級以上の管理職候補職員を対象としたマネジメント教育の仕組みの構築の検討	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	人員計画に沿った職員数の管理	成果時に 評価

2026年度の目標達成に向けた施策

管理職候補職員のマネジメント教育の仕組み検討



事務職員人材育成方針の策定

- 6月 現状把握・他組織調査
- 7月 課題整理
- 8月 素案作成
- 9月 院内調整
- 11月 事務職員人材育成方針の職員周知



2026年度の目標達成に向けた施策

人員計画に沿った職員数の管理



職員採用方針の策定

- 6月 現状把握・他組織調査
- 7月 課題整理
- 8月 素案作成
- 9月 院内調整
- 11月 職員採用方針の職員周知



2026年度の新たな取り組み

業務の増加

限られた人員

限られた時間



同じことを同じ時間で行うことは、固定費増加を意味する

■対策

ひとり1効率化

- ・グループ員の人事目標にする
- ・時間短縮・ポカヨケ・重複業務の統合
- ・「やめる」もOK



決意表明

人事管理グループは

- 1 事務職員人材育成方針の策定を通して、やりがいを持ち働ける環境を整備します
- 2 職員採用方針の策定を通して、採算性を意識した病院経営に寄与します
- 3 ひとり1効率化の推進により、生き生きと輝く職場環境づくりを進めます



【2026年度】目標発表会 病院総務課 施設管理G



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	建物・設備・建築物等の効果的な活用状況の評価と見直しの実施	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
厨房改修工事実施率(%)	5%	5%	15%	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

厨房改修

2026年度 厨房改修基本設計

- 厨房改修工事の基本的な設計を作成
(栄養管理室と協力し、課題解決のための運用を含め費用を合わせて重視する)
- 市建築受託課に概算工事費用の依頼
- 市の財政ヒアリングにて計画(費用・内容)を説明し、予算を獲得
- 次年度の設計業務委託を市に依頼する

2027年度 厨房改修工事実施設計業務委託
年度上半期に入札

2028年度 厨房改修工事・完成
年度上半期にて入札



2026年度の新たな取り組み

- (仮)消化器・内視鏡センター完成に伴う

 - 空きスペース利用のための改修

- 手術室スペース・麻酔科室の改修

- 行政財産使用業者の選定

- 修繕(建物・機器)計画の更新

※ 本館の耐用年数39年



決意表明

施設管理グループは

- 1 「医療の原点は思いやり」を実践するため、「安心」や「安全」、「快適さ」を感じてもらえるよう施設整備に努めます。
- 2 建物・設備に対する計画に沿った修繕・改修と費用対効果を意識した業務に取り組みます。



【2026年度】目標発表会 教育研修室



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	初期臨床研修医マッチング応募者確保	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	挑戦できる看護師特定行為研修の充実	成果時に評価
3. 職員が成長できる環境を支援	薬剤師・医療技術職のラダー研修の充実	成果時に評価



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
研修医マッチング応募者数増加	40名	44名	50名	成果時に評価
特定行為研修受講人数 (定員数6名)	6名	5名	6名	成果時に評価
薬剤部・医療技術部6年目以降 職員研修の充実 (薬剤部・医療技術部研修追加)	-	-	1研修	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

- 初期臨床研修医マッチング応募者数増
 - ・合同説明会参加、病院説明会開催、WEB説明会開催
- 特定行為研修に挑戦できる環境の整備
 - ・情報提供、受講前ガイダンスの実施
 - ・研修スケジュール管理や部署との業務調整支援
- 薬剤師・医療技術職のラダー研修の充実
 - ・研修項目の選定、研修内容の構築
 - ・研修スケジュール管理や部署との業務調整支援



2026年度の新たな取り組み

●特定行為に関するキャリア相談の設置

- ・教育研修室に特定行為修了看護師2名配置

●特定行為共通科目を魅力ある内容へ

- ・時代に即した講義を導入

●薬剤師・医療技術職のベテラン層向け研修開講

- ・キャリアアップに必要な研修を導入



決意表明

病院全体の医療の質向上を図る為、
キャリア形成支援を推進します。



【2026年度】目標発表会 医事課 医事G



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	内視鏡センターの早期稼働の実現 ポケメドを活用した患者の利便性向上	成果時に評価
2. 職員が活き活きと輝く職場環境を整備	業務の標準化の体制整備による残業時間削減	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	診療報酬改定への確実な対応と算定分送料の見直しと選定療養費の検討 未収金保証制度の導入検討	成果時に評価



2026年度 数値目標

	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
ポケメド登録者数(人)	-	957 うち後払い 447	5,000 うち後払い 2,000	成果時に評価
残業時間削減(時間)	一人あたり 月平均 40.67	一人あたり 月平均 41.25	下半期一人あたり 月平均 30 ※25年度比-25%	成果時に評価
診療単価(円)	入院: 82,916 外来: 22,698	入院: 82,110 外来: 24,559	入院: 88,997 外来: 24,939	成果時に評価



2026年度の目標達成に向けた施策

* ポケメド機能の活用拡大

登録キャンペーンの実施
ポケメドによる予約変更受付の体制整備
お知らせ機能を活用した情報発信

利便性の向上
満足度UP

* 課内業務のチーム化

相談しやすい環境でフォローアップ
業務のDX化の推進

業務整理で残業削減

* 関係各所と連携した改定対応

改定対応表を共有し、多くの視点で進捗管理

もれの防止



2026年度の新たな取り組み

◆課内業務を3つのチームで運営

座席の島ごとにリーダーとなる人員を配置

- ・相談しやすい
- ・目に届きやすい **早めのフォロー◎**

◆未収金保証制度導入に向けた準備

入院・外来どちらにも対応可能な保証金制度の検討

- ・導入可否判断のため慣例業務に係る労力を見える化
- ・2つの法律事務所への委託内容を整理

新規未収ゼロに向け前進◎



決意表明

～診療報酬は病院収入の柱～

確実な算定のために尽力します

～システム変更は業務改善のチャンス～

今までの当たり前を見直します



【2026年度】目標発表会 医事課 健診G 健診センター

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
要精密検査受診率(%)	46.2	32.2	60	成果時に 評価
健診センター再受診率(%)	73.9	76.0	80	成果時に 評価
受診満足度(%)	43.2	48.2	90	成果時に 評価
健診収益対前年度比(%)	0.6	-1.2	+2	成果時に 評価



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
3. 経営基盤の回復	精密検査予約体制の充実	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	WEB予約枠の拡大、健康アプリの導入による 受診者確保、リピーターの確保	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	新規企業健診、人間ドック受託の拡大	成果時に 評価



2026年度の目標達成に向けた施策

○健康アプリ導入・リピーター確保

- 問診票発送時にチラシを同封し、アプリをダウンロード
- メッセージ配信(受診勧奨等)
- 受診者自身でのデータ管理(健康への意識づけ)

○健診施設機能評価の受審

- マニュアルの確認及び見直し
- 業務の標準化
- 協会けんぽによる健診施設機能評価現地調査受審
- 認定受審施設へ視察
- コンサルタント業者のアドバイス



2026年度の新たな取り組み

○祝日稼働による収益増

【設定】

- 企業健診25人枠、1日ドック20人枠
- 売上 1,400,000円/日

【課題】

- 医師、看護部、医療技術部の協力
- 緊急時の体制
- 休日出勤が不可能な時短勤務者の代替確保
- ドック食提供可能業者の調査・調整



決意表明

○サービスの質の向上に努めます

○継続かつ安定的な収益の確保に努めます

○既存受診者の定着、新規顧客の獲得に努めます



【2026年度】目標発表会 経営企画課 企画情報G



2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる医療を磨く	環境整備: ホスピタルアートの継続	成果時に評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	業務効率化: 生成AIやRPAの活用推進	成果時に評価
2. 職員が生き活きと輝く職場環境を整備	人材育成: 病院経営塾2期生2年目としてまとめの年	成果時に評価
3. 経営基盤の回復	施設基準: 診療報酬改定への確実な対応	成果時に評価

中期計画1年目！ 確実なスタートを切る



2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標	達成度
病床稼働率(%)	76.2	81.0	83.0	成果時に評価
新入院患者数	1,081	1,136	1,163	成果時に評価
入院診療単価(円)	82,916	82,086	88,997	成果時に評価
生成AI等の活用件数(件)	-	-	10	成果時に評価

中期計画1年目！ 数値目標は確実に達成するよう取り組む



2026年度の目標達成に向けた施策

<数値目標>

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標
病床稼働率(%)	76.2	81.0	83
新入院患者数	1,081	1,136	1,163

土日には10%↓することをふまえての 83%

2025年度7~2月の平均が 83%

在院日数を調整して稼働をあげるのではなく、新入院を確保して稼働をあげる

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標
入院診療単価(円)	82,916 (稼働ベース)	82,086 (稼働ベース)	88,997 (決算ベース) ※重点目標

診療報酬改定により4,000~5,000円程度UP見込み

目標達成のためには、更なる病院努力が必須！



2026年度の目標達成に向けた施策

<数値目標>

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標
生成AI等の活用件数(件)	-	-	10

※重点目標

SSIの生成AIを導入し、サマリや診療情報提供書等の医療文書作成支援を開始
Googleアカウントを取得して活用推進
RPAの導入(WG立ち上げ)

<重点目標>

- ホスピタルアートの継続
外来エリアの絵画用タペストリのリニューアル
- 経営塾2期生2年目
1年目に現状の把握 → 実行

職員一人一人の経営意識向上が、
健全な病院経営につながります



2026年度の新たな取り組み

生成AI/RPAの活用推進

生成AIサービスの概要

4つの機能

- ① 退院サマリ・看護サマリの下書き(案)作成
AIによる、患者ごと or 一括でサマリの下書きを作成
- ② 診療情報提供書の下書き(案)作成
AIによる、患者ごとの下書きを作成
- ③ 生成AI汎用ツール
院内で生成AIを自由なプロンプト(指示)で文章生成できる機能
電子カルテのタロース連携と生成AIの外部連携の実現
- ④ 音声AI(議事録作成)
電子カルテ端末で音声による議事録作成を実現
院内会議などでの議事録作成時に活用可能



実証実験と効果測定

他院のケース

●医師



●看護師



医師、看護師のみなさまの負担軽減に
つなげていきます



決意表明

経営企画課は、「**縁の下の力持ち**」

として病院経営に貢献したいと考えています。

私たち、経営企画課のお客様は、「**患者さんや地域の関係者に加えて、病院の職員の皆様全員**」です。

「**明るく楽しく、そしてスピーディーに**」

をモットーに、何事にも真摯に対応しますので何でもご相談
ください。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



【2026年度】目標発表会 経営企画課 財務物品G

2026年度 数値目標

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標	達成度
共同購入品(汎用品) 採用率UP	55.7%	67.4%	75.0%	成果時に 評価
診療材料在庫金額抑制 (金額は1月末時点)	158,606千 円	167,076 千円	158,500 千円以下	成果時に 評価
器械備品入札差額確保	32,118千 円	61,669 千円	35,000 千円	成果時に 評価

共同購入(NHA)加盟5年目！採用率を全国平均以上を達成するよう取り組む



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 地域から求められる 医療を磨く	環境整備:内視鏡センター医療機器整備	成果時に 評価
1. 地域から求められる 医療を磨く	環境整備:入札差益を上げ、1つでも多くの 予算から漏れた医療機器を更新	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	材料費抑制:共同購入品の更なる切替え推進	成果時に 評価
3. 経営基盤の回復	材料費抑制:在庫適正化による期限切れ削減	成果時に 評価

内視鏡センター9月オープンに間に合うよう医療機器を計画的に調達しつつ
1円でも安くできるよう入札前の価格交渉をギリギリまで実施します



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の目標達成に向けた施策

<数値目標>

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標
共同購入品(汎用品)採用率	55.7%	67.4%	75.0%

- ・第5回見本市の計画・実施、実施後の迅速な切り替え
- ・NHA事務局(NHS静岡)との連携強化(選定品情報等の情報共有等)
- ・NHAナビの活用

項目	2024年度	2025年度	2026年度 目標
診療材料在庫金額抑制	158,606千円	167,076千円	158,500千円

- ・各部門の使用量に応じた定数の見直し
- ・期限切迫、不動在庫情報の院内発信(優先使用の啓蒙活動)
- ・SPD勉強会を通じた、物流管理(SPD)の院内理解向上



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2026年度の新たな取り組み

患者別消費データの2次利用

診療材料費管理の最適ツール

- ✓ A医師：限界利益率 45%
- ✓ B医師：限界利益率 30%
- ✓ 術式C：限界利益率 45%
- ✓ 術式D：限界利益率 35%

この差がデバイス選択、在院日数、手技効率の違いを示す

診療科別
医師別
術式別 } 限界利益率を求め、レポート報告(QMセンター)

目的は限界利益を上げるのではなく、赤字の構造を知ること

「2026年度事業管理者方針発表会資料抜粋」

1月より電子カルテがSSIへ

SPDシールを電カルで実施入力開始


診療科・患者別消費情報取得が可能に


Before: 「いつ・どの部署で使用した」

After: 「いつ・どの診療科で・誰に使用した」

「原価計算」に必要な情報提供が可能に！

SPDシールを実施入力するメリットはデータ2次利用以外に、請求漏れ対策や発注タイムラグ改善(在庫補充のスピードUP)にも貢献します！

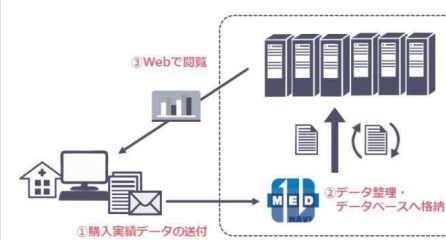




2026年度の新たな取り組み

医療機器ベンチマークシステムの活用

項目	2024年度	2025年度	2026年度目標
器械備品入札差額確保	32,118千円	61,669千円	35,000千円



ベンチマーク導入による効果

Before: 根拠の無い価格交渉
保守金額、修理金額適正額不明

After: 他施設の情報をもとに根拠ある価格交渉が可能に
保守や修理等のランニングコストも適正価格を把握できる





決意表明

財務物品グループは、コスト削減や補助金等の財源確保を実施し、必要な投資は1つでも多く実現させたいという思いでいます。

しかしながら「**病院のお財布を預かる番頭**」

として資金繰りが苦しい現状においては、お財布の紐をきつくし、

「無い袖は振れません」という、時には冷たい対応をするかもしれません。(すでに行っているかもしれません・・・)

たとえ嫌われても「**現金だけはショートさせない**」ことを最優先に**病院運営を維持**できるよう努めます。

老驥伏櫪志在千里！



